

こやま 小山遺跡

令和8年7月11日
大阪府教育庁文化財保護課
現地説明会資料

1 はじめに

小山遺跡は、羽曳野丘陵から北に延びる段丘の北端部に位置し、低位段丘と河内低地に抜ける谷部に広がる遺跡です（図1）。これまでに藤井寺市教育委員会が実施した調査では、縄文時代の土器や古墳時代の竪穴建物、古代の流路が確認されています。また、本調査区の北西では5世紀後半から6世紀前半の円墳（西代1号墳）と方墳（西代2号墳）が確認されています（図2）。

大阪府教育庁文化財保護課は、一般府道 大阪羽曳野線（八尾富田林線）の建設に先立ち、令和8年5月から発掘調査を実施しています。

2 調査成果

今回公開する調査区では、墳丘を削平された古墳が3基（古墳1・2・4）、古墳の周溝と考えられる溝が1条（古墳3）見つかりました（図3）。

古墳1（写真1）は全体の形は不明ですが、墳丘の長さは9m以上です。周溝は、深いところでは約60cm残っており、溝の底から大刀形埴輪（写真4）や蓋形埴輪、円筒埴輪（写真5）の破片が見つかりました。周溝には、レンズ状に薄く堆積した砂や粘土の層の上に、埴輪の破片やブロック状の土の塊を含む層が分厚く堆積しています。古墳2～4も同様で、これらの古墳の墳丘は後世に破壊され、溝も埋められてしまったと考えられます。

古墳2（写真2）は、墳丘の長さ一辺約7mの方墳です。古墳の主軸は西に約30°振れています。古墳2の周溝は深さ30cmほど残っており、底から須恵器や土師器（写真6・7）、石製紡錘車が2点見つかりました。

古墳3は、現在は周溝の一部のみが見つかり、墳形などの詳細はまだわかりません。周溝からは古墳2よりやや古い時期の須恵器が見つかりました（写真8）。

古墳4（写真3）は、墳丘の長さ約7.8mの方墳です。周溝は深さ20cmほど残っており、周溝の底から埴輪（写真9）や須恵器の破片が出土しました。須恵器は古墳2より新しい時代のものと考えられます。

古墳の上の層には埴輪の破片や飛鳥時代から奈良時代の土器が含まれており、古墳が削平されたのは飛鳥時代から奈良時代の間の可能性があります。その後は、中世から近世の土器が含まれる耕作土が堆積しており、古墳が削平されてから、調査地は耕作地として利用されていたことがわかりました。

3 まとめ

小山遺跡内ではこれまでに、小規模な古墳が複数確認されています（図2）。周辺には津堂遺跡、津堂城山古墳、丸山・平塚古墳など、古墳時代の重要な遺跡が数多く位置し、さらに、南東には5世紀を中心に古墳の造営が盛んにおこなわれた古市古墳群が広がります。この度の古墳の発見は、当該時期のこの地域の土地利用や、周辺の古墳との関係性を考える上でも重要な成果といえるでしょう。

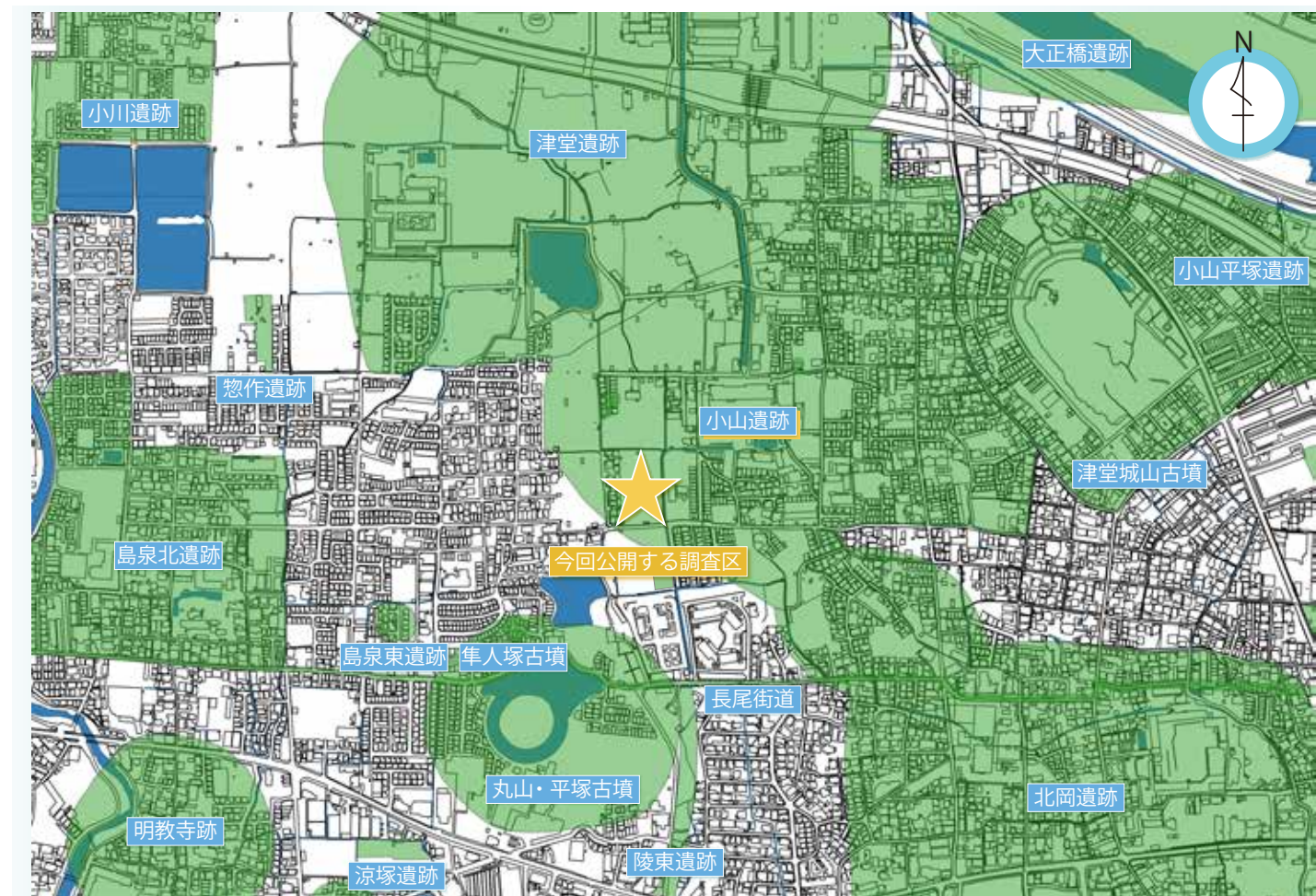


図1 小山遺跡の位置図



図2 小山遺跡内で確認された小規模古墳の分布図



写真1 古墳1 周溝検出状況（南東から撮影）



写真2 古墳2 周溝掘削状況（南東から撮影）



写真3 古墳4 周溝掘削状況（南東から撮影）

古墳 1

幅約 3.5 ～ 4 m、深さ約 40 ～ 60cm の周溝が検出されました。周溝の底には砂と粘土の層があり、蓋形埴輪の立ち飾り部と、円筒埴輪が出土しました。立ち飾り部に線刻された文様は簡略化されています。これらは古墳の墳丘に並べられていたものが、周溝の中に転がり落ちたものと考えられます。また、周溝からは大刀形埴輪の柄部も見つかりました。大刀形埴輪は近畿では発見例が少なく、貴重な事例といえます。

これらの埴輪が周溝の底に落ちた後、周溝は埴輪の破片が多く混じった土で埋められています。墳丘を壊した土で溝を埋め、周辺を平坦に均した可能性が考えられます。

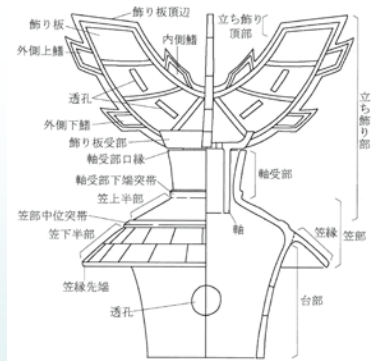


図 5 蓋形埴輪の部位名称

(小栗明彦 2007「蓋形埴輪編年論」『埴輪論考 I』より引用)

古墳 4

幅約 2 ～ 3 m、深さ 10 ～ 20cm の周溝をもちます。古墳の主軸はほぼ南北方向で、周溝の底から須恵器や埴輪の破片がみつかりました。出土した遺物を見ると、古墳 2、3 より少し新しい古墳の可能性があります。



写真 4 古墳 1 大刀形埴輪出土状況 (北西から撮影)

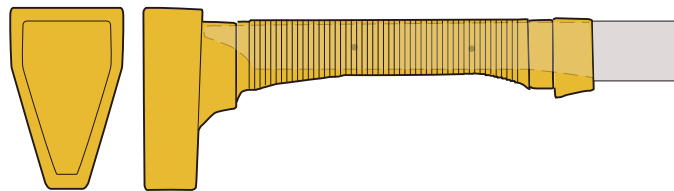


図 4 古墳時代の木製大刀の柄 模式図



写真 5 古墳 1 円筒埴輪・蓋形埴輪出土状況 (東から撮影)



写真 9 古墳 4 埴輪出土状況 (南東から撮影)

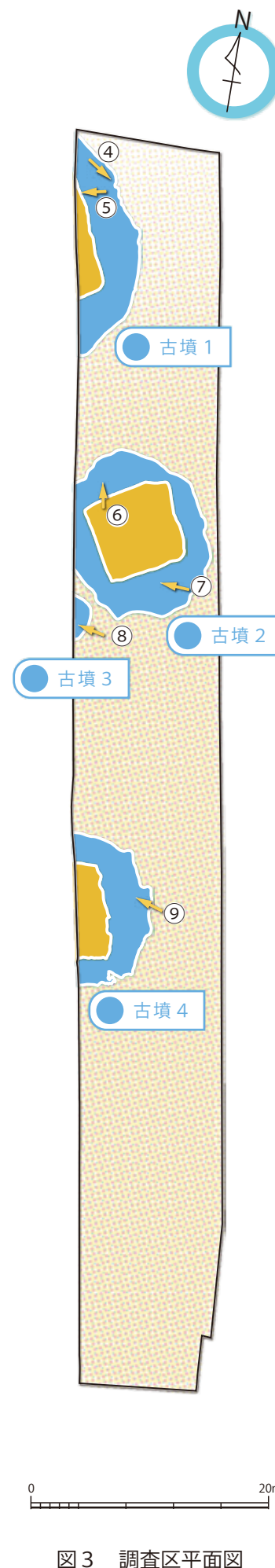


図 3 調査区平面図

古墳 2

幅約 2 ～ 4.2m、深さ約 30 ～ 40cm の周溝が検出されました。周溝の底からは須恵器の杯、壺、はそう、土師器の壺などが出土しました。墳丘の北側にまとまって置かれた一群では、無蓋高杯のほか、須恵器の杯と蓋が重なった状態でみつかりました。また、石製の紡錘車も出土しています。墳丘の南側では須恵器の甕の破片が出土しました。須恵器の型式から、5 世紀後半ごろの古墳と考えられます。



図 6 古墳 2 オルソ画像 (S=1/300)



写真 6 古墳 2 須恵器・土師器出土状況 (南から撮影)



写真 7 古墳 2 須恵器甕出土状況 (南東から撮影)

古墳 3

深さ約 30cm の周溝から須恵器がまとまって見つかりました。検出されたのは周溝の一部のみですが、周溝の堆積状況から古墳である可能性があります。見つかった須恵器はわずかですが、製作された時期は古墳 2 の須恵器より少し古い可能性があります。



写真 8 古墳 3 須恵器出土状況 (南東から撮影)

各種 SNS



X (旧 Twitter)



Instagram



Facebook

